

取組名称	“ふだん”が楽しく、“もしも”に強い。 交流拠点「まちのえき」を核とする住民主体型まちづくり			団体設立後の経過年数	43年目
応募取組主体名称	萩の台住宅地自治会	活動地域	生駒市萩の台地区	応募取組の活動年数	7年目
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他（自治会）				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXP02025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

地域コミュニティの活性化や高齢者の居場所づくりなどを目的とし、歩いて行ける自治会館を住民主体の活動拠点「まちのえき」とする取組を令和元年度から実践。「まちのえき」をコミュニティ活動の核として、民間企業と連携した事業や、グリーンスローモビリティ（以下「グリスロ」という。）の実証導入。公園、緑道、住民宅の車庫などを活用した活動を継続的に実施。令和5年には、生駒市の「脱炭素先行地域」のモデル地区となり、Cool（or Hot）スポットとして機能する「まちのえき」の活性化と、自治会館・戸建住宅への再エネ設備の導入に取り組み、コミュニティの活性化を原点としながら地域脱炭素化の実現を目指している。

実績の要旨

「まちのえき」が気軽に立ち寄れる場所になるよう、取組を開始した令和元年から、地域住民が平日昼間の自治会館に交代で常駐。健康講座（毎木曜）やカフェ（月2回）、企業による移動販売（毎月・木曜）などを開催し、「まちのえき」を多世代交流の拠点として確立した。令和7年5月には、自治会館に設置した太陽光・蓄電池を、地域の足であるグリスロの電力として利用し、移動支援や再エネ電力の地産地消を実現するとともに、災害時の非常電力として活用。グリスロは自治会のボランティアで運行するなど住民同士の助け合いの輪を広げることに成功。

取組評価の要旨	環境への貢献	自治会館を太陽光・蓄電池・グリスロなど地域の脱炭素拠点として確立。家庭向け太陽光・蓄電池の普及促進で地域全体の脱炭素化に貢献。
	社会・経済への貢献	「まちのえき」で多様なサービスを複合的に展開することで地域の繋がりを構築。「脱炭素事業」の設備導入には市内業者を積極活用し、市域を元気に。
	地域資源の活用	自治会館や公園、緑道を脱炭素化・地域交流の場に、住民宅の車庫で臨時のお店を出店するなど地域資源を有効活用。
	普及・汎用性	「まちのえき」は、住民の気持ち次第で、全国の住民都市で実施可能な取組であり、生駒市では既に16地区で実施中。
	革新・ユニーク性	様々な自治会活動を組み合わせ、生駒市や協力企業と連携することで、オールドニュータウンを持続可能な地域に変える“まちづくりモデル”に。
	継続性	「まちのえき」は自治会活動として、常駐担当者を確保。自分が活躍できる場としての認知度が向上。

展望の要旨

住民の足であるグリスロの実装・オンデマンド化を図り、「まちのえき」を定着させていくことを通じて新たな世代に引き継ぐ持続可能地域なづくりを目指す